

明倫の風

明倫小 校長室だより 第7号
平成29年2月21日(火) 発行
校長 椿 義 憲

相手の目を見て、自分の気持ちを伝えよう ～ “目は口ほどに物を言う” ～

2月も半ばを過ぎ、今の学年も残すところひと月半となりました。この1年間を振り返って自分がどのように成長したかを考えるときです。



明倫小学校では、とても大切にしていることに「明倫小A」の「あいさつ」があります。自分のあいさつのめあてを決めて取り組んでいると思います。

4月に比べて、自分から先に7mあいさつができていますか。相手の顔を見てあいさつをしていますか。あいさつは、「あ(相手の目を見て) い(いつでも) さ(先に) つ(続けよう)」です。特に、相手の目を見て、自分の気持ちを伝えることが大切であると思います。

“目は口ほどに物を言う”ということわざがあります。「気持ちを込めた目つきは、口で言うのと同じくらいか、それ以上に、相手にその気持ちが伝わるものである」という意味です。朝や昼、放課後、様々な場面でのあいさつは、目を見て自分のさわやかな気持ちを相手に伝えましょう。

● 新聞で中学生のあいさつについて、次のような話が載っていました。

丁寧にあいさつする中学生たちに感心

六〇代女性(福岡市)

先日、近所を散歩した際、下校中の女子中学生三人が「こんにちは」とすれ違いざまに笑顔であいさつをしてくれた。次に出会った男子中学生一人と私は、ほぼ同時に「こんにちは」と声を交わした。非常に感心したのは男女どちらも立ち止まってあいさつし、お辞儀までしたことだ。

真心のこもったあいさつは、いつまでも心に残る。(途中略)身近な地域に住む生徒たちの素直さに触れ、うれしくなった。

(読売新聞 十二月一日)

